

平成24年度学校経営方針

江戸川区立篠崎小学校

校長 高 島 一 広

I はじめに

篠崎の町を心のふるさととし、篠崎の地区に根付いた豊かな人間性を培い、「江戸川大好き・篠崎大好き」な子供たちの育成を目指す。

また、4つの「あ」（あつまり・あいさつ・あとしまつ・ありがとう）を大切にし、自ら学ぶ喜びを体験を通して実感させ、自己実現を目指す教育の充実を図る学校経営を進めていく。

II 教育目標

江戸川区教育委員会の教育目標に基づき、児童および地域社会の実態を踏まえ、人権尊重の精神を基調とし、地域を愛する心情を育てるとともに、健康で知性と感性に富み、社会連帯意識や国際的な広い視野をもった人間性豊かな児童の育成を目指し、次の目標を設定する。

- よく考える子（自分から進んで課題を追究する子、深く考え判断する子）
- ◎心豊かな子（感性に富み、思いやりのある子、やり抜く意志のある子）
- じょうぶな子（明るい子、元気な子、体力のある子）

III 教育の構想

これまでの本校の教育のよさや成果を継承するとともに、情報化、国際化、少子高齢化などの社会の変化に対応した教育課題に主体的・弾力的に対応する篠崎小学校の教育を創造する。

- ◇目指す子供像 よく学び よく遊ぶ 心豊かな篠崎っ子
- ◇目指す教職員像 子供のよさを認め もち味を 伸ばし 育てる教職員
- ◇目指す学校像 夢と希望を 実感できる 魅力ある学校
- ◇目指す保護者像 子供の よき理解者となり 自立を支援する保護者

IV 経営の視点

- 1 子供にとって楽しい学校づくり
- 2 授業内容の充実と改善
- 3 内外に開かれた学校づくり
- 4 魅力ある学校づくり
- 5 報・連・相の徹底と組織の活性化

V 校長の経営方針

自己申告の5項目に沿って、内容を提示する。

1 学習指導

- 個性を生かした指導を充実させ、基礎・基本の確実な定着・向上を図り、自ら学び、自ら考える意欲・態度を育成する。
- (1) 『確かな学力向上推進プラン』に基づき学習指導の充実を図る。
- (2) 五感をフルに使った具体的な学習活動を導入し、子供の学習意欲の高揚を図り、問題解決的な学習活動を展開する。
- (3) 分かる授業を展開し、子供一人一人に学ぶ喜びを実感させ基礎学力の定着・向上を図る。
- (4) 朝読書1000分以上の取り組みによって読書好きな子供の育成に資する。
- (5) 地域の豊かな教育資源（人的・物的）の効果的な活用を図り、地域に根ざした教育活動を計画・実践し、江戸川大好き・篠崎大好きな子供を育成する。
 - ・朝の読み聞かせ活動を全校で展開する。（学校応援団）
 - ・学校農園での小松菜作りをはじめとする栽培活動を充実・推進する（学校応援団）
- (6) ICT 機器（50 インチテレビ・書画カメラ・パソコン・ブルーレイ等）の活用を図り、学習効果を高め、情報活用・選択能力を育成する。
- (7) 教育活動全体を通して、コミュニケーション能力の育成と向上を図る。

2 生活・進路指導

- 子供一人一人のよさや可能性を多面的に捉え、認め、褒め、励まして、やる気を育てる。
- いじめ・不登校、学校不適應「0」を目指す。
- 進んで健康で安全な生活をしようとする態度・能力を育てる。
- 教育活動を通して自己決定場面をつくり、自己実現をいていく喜びや充実感を育てる。
- (1) 明るい挨拶、正しい言葉遣いを全教職員が示範する。
- (2) 学級での生活を通して存在感、成就感を味わわせ、子供相互が認め合え、何でも言える学級づくりに努める。
- (3) その子にあった対応を一緒に考える。子供が安心感や自信をもてるように指導を工夫する。
- (4) いじめ・不登校の早期発見については、組織を生かして事実を的確に把握し、その子に応じたきめ細やかな指導を行い、改善に努める。また、家庭、地域、関係機関との連携強化を図り、虐待等を防止する。
- (5) 効率的な給食指導や清掃活動の内容などを指導・工夫する。
- (6) もの（食べ物や公共物・私物）を大切にすることを育てる。
- (7) 「早寝・早起き、朝ごはん」など基本的な生活習慣を家庭との連携を深めて定着を目指す。
- (8) 安全点検は、児童の目線で行う。

- (9) 保護者の声に耳を傾け、専門的な立場から子育てを支援する助言を行う。
- (10) 特別な支援を要する児童の指導にあたっては、校内の指導協力体制を整備し、保護者の理解・協力を得ながら、適正な学習内容・形態・方法を工夫することによって学習及び効果的な支援を行い、指導効果を上げるようにする。

3 学校運営

○教育目標および校長の学校経営方針の具現化をめざし、本校の子供、学校、地域の実態・要請に合った教育活動を組織的、意図的、計画的、協力的に展開する。

- (1) 「子供の確かな育ち（望ましい変容）」を主体にし、考えた学校運営を進める。
- (2) 分掌で課題を明らかにし、情報を共有しながら改善を図り発展・充実を目指す。
- (3) 地域の伝統的な行事や町会の行事に参加することを通して、地域を愛する心、連帯感、住民意識を育てる。
- (4) 道徳授業地区公開講座を開催し、道徳教育の充実を図り心の教育を進める。
- (5) 生活リズム向上公開講座を開催し、生活リズムの改善・向上に資する。
- (6) 学校予算の適正な執行、事務の効率化を図る。
- (7) 私費に集金は必要最低限度に留める。出納帳記入や現金収受の日付、確認印、領収書の保管など適正・適切に行う。
- (8) 地域教育推進・学校応援団連絡会を開催し、学校への要望を吸い上げたり、本校の教育活動の様子を伝えたりして、連携と交流の強化・推進を図り、教育活動への一層の理解と支援を求める。

4 特別活動・その他

○望ましい集団生活を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。

○集団の一員としての自覚を深め協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

- (1) 「子供は行事を通して育つ」との考えに立ち、自主性、実践力、参加意欲を伸ばし高める。
- (2) クラブや委員会、学校行事などの事前指導では、行事の意義や活動の見通しをもたせ楽しく参加できる心構えを指導する。また、事後指導では、適切な評価と指導を行い、子供の参加意欲の継続を図る。
- (3) 当番活動は、学級全体に奉仕するための活動である。そのために仕事内容、手順、責任等を明確にし、子供の活動を見守り、同行する。
- (4) 自分が担当する子供に対しては、担任する子供と同様に子供理解に努め、責任をもって指導、育成する。

5 能力開発（OJT、研究、研修、自己啓発）

- 日常的な職務を通して、必要な知識、技能、意欲、態度など、意欲的、計画的、継続的に高めていく OJT に取り組み、「4つの力」を身に付ける。
- 豊かな教育理論と優れた指導技術を身につけ、自らの人間性を磨く。
- 生涯学習の基盤である学ぶ喜びを子供に実感させるために、日夜、魅力ある授業を創造する。
- 全ての教員が課題意識をもってさまざまな研修・研鑽に自ら励むようにする。
 - (1) 教員の経験や能力、職層に求められる「4つの力」を明らかにし、その到達に向けて、意識的に研修・研鑽に励むようにする。
 - (2) 自己申告書・キャリアプランに即し、専門性を高める自己研修を積極的に行い、OJT の計画、実施及び中間評価、検証を行い、人材育成に資する。
 - (3) 区小教研一斉研究日には、キャリアプランに沿った研究会に参加し、グループ研修や個人研究など自己研修に努める。各部の提案授業も進んで受けてほしい。
 - (4) 校内研究を通して、豊かな教育理論と優れた指導技術を身に付け、生涯学習の基盤である学ぶ喜びを子供に実感させるため、魅力ある授業を創造する。
 - (5) 校内研究は共同研究である。子供に研究成果を還元できるようにする。

6 その他

- (1) 体罰を必要としない教育を展開する。
- (2) 出勤退勤時刻の厳守、適切な服装・言葉遣いなど、教育公務員として、節度ある態度を心がけ、法令を遵守し、適正な服務規律を心がける。
- (3) 個人情報取り扱いは、十分に配慮し内規を遵守する。
- (4) 「週案簿」は前週に翌週分を提出する。記述内容として①教科名②単元名③本時のねらいを記入する。また、事故や事件に対する対応・指導内容は、必ず記録しておく。週末には、一週間を振り返って所感などを記入する。周予定を変更して実施した場合は、朱書きで訂正する。
- (5) 各種の通信、お知らせ等、校内外に限らず発行文書は、必ず副校長に提出に確認を受ける。
- (6) 保護者会・授業公開・懇談会等の機会を通して、学校の教育活動を保護者、地域に公開し、わかりやすく説明する。
- (7) 保護者会・個人面談・懇談会では、担任は学級経営方針を伝える。また、保護者の要望や願いを聞くことのできる機会であると捉え、積極的に耳を傾ける。
- (8) PTA 行事には、できるだけ協力、参加し、保護者とともに子どもを育てる環境を整える。
- (9) 地域行事には可能な限り参加し、子供の様子や地域を理解するための一助としたい。
- (10) 自らチャレンジ精神をもち、絶えず新しいことに挑戦するなど、前向きな姿勢で仕事をするように心がける。